

半田市環境基本計画に関する評価・提案 (令和5年度分)

令和6年8月

半田環境審議会

1. はじめに

令和3年3月に、半田市環境保全条例第7条に基づき、本市における生活環境の保全に関する施策を総合的かつ計画的に推進することを目的に、当初計画期間を10年間とした半田市環境基本計画（以下、「基本計画」という。）を策定しました。

基本計画に掲げる施策を実施・適正な進行管理のため、市民・事業者・行政・有識者で構成する「半田環境審議会」において、令和5年度実施分の評価を取りまとめましたので報告します。

（基本計画の期間）



2. 評価の方法

評価については、まず、担当課において実績報告票で「庁内評価」を行い、その結果を参考としながら、半田環境審議会において議論し「市民評価」を行い、総括的な評価としてまとめました。

「庁内評価」については、施策ごとに設定した指標（目標値）と現状値との比較や、令和5年度事業の実施内容・進捗状況を踏まえ、担当課において4段階の成果指標達成度を評価しました。

「市民評価」については、基本計画の5つの柱毎に施策の進捗状況、各指標の推移などを参考に4段階評価を行うとともに、施策の到達点や課題などについてまとめ、今後の施策推進に向けた提案をしました。

■庁内評価（成果指標達成度基準）

達成度 マーク	説 明	
 A A	目標値を達成しているもの	【計画を上回る】
 A	基準値から、目標値まで直線をひいたときに、最新値が直線よりも上方（達成方向）であるもの	【計画どおり】
 B	基準値から、目標値まで直線をひいたときに、最新値が直線よりも下方（未達成方向）であるものの、基準値からは向上、改善しているもの	【計画を下回る】
 C	最新値が、基準値よりも下方しているもの	【未着手】

■市民評価（評価基準）

達成度 マーク	説 明
 A A	良好です
 A	概ね良好です
 B	改善・見直しの必要があります
 C	改善・見直しを行い一層の努力が必要です

5つの柱

1. ゼロカーボン社会
2. 資源循環社会
3. 自然共生社会
4. 安心・快適社会
5. 協働

3. 令和5年度分の評価・提案

総括評価

環境基本計画では、公害防止など良好な環境の維持だけでなく、複雑・多様化する海洋プラスチックごみ問題や食品ロスの削減、さらにゼロカーボン社会の実現など、環境・経済・社会のそれぞれの課題に対し、統合的に対応する必要があります。環境・経済・社会の3側面の統合的向上により、地域の環境向上と持続可能なまちの実現をめざし、策定をされています。公害防止などの狭義の環境分野だけではなく、建設、教育、農林水産などの分野においても、環境への配慮や積極的な環境創造を重要視して策定がなされています。したがって、狭義の環境分野だけではなく、建設、教育、農林水産などの分野においても、環境への配慮や積極的な環境創造を重要視し、それぞれの多面的な要素として、環境とのつながりを再認識し、事業を展開する必要があります。

また、基本計画の着実な推進には、公正かつ適正に評価を実施し、その結果をそれぞれの事業にフィードバックするPDCAサイクルの確立が不可欠なため、基本計画に記載されている事業に対し、各委員からの評価コメントをもとに、さらなる施策を推進するため、「評価できる点」、「期待したい点」、「評価できない点」、「問題と思われる点」をまとめました。

市民評価は、事業ごとに担当課が作成した「環境基本計画実績報告票」及び「施策の進捗を見る指標・目標」の推移、環境報告書の内容を判断材料としました。実績報告票には、主な実施内容（成果）、今後の取組方向、課題、担当課が行う庁内評価が記載されています。

令和5年度は、計画の基本理念を実現するための5つの柱「1. ゼロカーボン社会」、「2. 資源循環社会」、「3. 自然共生社会」、「4. 安心・快適社会」、「5. 協働」について評価しました。

柱1「ゼロカーボン社会」では、地球温暖化を緩和するべく、一つの市でやれることは限られるところですが、「市民討議会」「脱炭素チャレンジ事業」など市民を巻き込みながら、意識の醸成を図り、市全体として取り組んでいく姿勢が見られます。

柱2「資源循環社会」は、順調にごみ減量が進捗しており、還元策事業により、市民のモチベーションを維持する仕組みも構築され、更なるごみ減量が進むことを期待します。

柱3「自然共生社会」、柱4「安心・快適社会」については、畜産臭気の軽減や河川の水質改善など長き渡り取り組んでいるものの、根本的な改善には至っていませんが、成果を地道に積み重ね、少しずつ進展をしています。

柱5「協働」は、市民、事業者、市民団体等が様々な場面において活躍されており、半田市の強みである「協働」が環境分野でも活かされています。

環境に関する課題解決には時間を要するものばかりですが、一つ一つ着実に取り組むことが、半田市の将来の環境を守ることに繋がります。

柱1 ゼロカーボン社会

- 1-1 脱炭素社会へ移行する
 - 1-1-1 ゼロカーボンシティをめざす第一歩を踏み出します
 - 1-1-2 家庭の脱炭素化を進めます
 - 1-1-3 事業所等の脱炭素化を進めます
 - 1-1-4 移動における脱炭素化を進めます
 - 1-1-5 再生可能エネルギーの最大限の活用に取り組みます
 - 1-1-6 市（行政）が率先して脱炭素化の行動を示します
- 1-2 気候変動に備える
 - 1-2-1 多様な主体との連携により、気候変動適応策に取り組みます

庁内評価（成果指標達成度数）				庁内評価 対象事業数
 AA	 A	 B	 C	
1	14	7	0	22

半田市環境審議会委員評価				市民評価
 AA	 A	 B	 C	
0	9	1	0	 A

《評価できる点》

- 市民・事業所・行政が、それぞれの立場でゼロカーボンに向けてチャレンジしており、結果として、順調にCO₂総排出量の削減につながっている。
- 「市民討議会」を開催することで、普段環境に関心のない市民にも脱炭素に関心をもつきっかけを作り、また、家庭におけるCO₂排出量把握のため「脱炭素チャレンジ事業」を実施するなど、市民を巻き込みながらゼロカーボンに向けて取り組んでいる。
- CO₂フリー電力の導入や公共施設照明のLED化、市民を巻き込んだ「脱炭素チャレンジ事業」や「市民討議会」、国の交付金事業の活用など、先進的かつ積極的にゼロカーボンに向けて取り組んでいる。
- 半田市バイオマス産業都市構想に基づき、畜産ふん尿等を利用したトリジェネバイオガス発電が安定して稼働しているとともに、排熱・排ガスを利用したトマト工場も稼働し、エネルギーの地産地消する循環型社会の形成が順調に進んでいる。
- 把握が困難とされていた家庭部門のCO₂排出量実態把握に取組み、正確な数値データをもとに事業を実施していくことで、市民・事業者へも理解が深まり、市全体におけるゼロカーボンの推進につながる。
- 公共施設の建替え時に「ZEBready」を前提とした検討を行うことは、空調コス

トの抑制など温室効果ガス排出量削減と快適な室内空間の確保の両立につながり、市の方針として評価できる。

《期待したい点》

- 現状の目標値にとどまらず、国の交付金事業の活用など更なる高い水準を目指すとともに、「脱炭素チャレンジ事業」や「デコ活」を通じた市民活動や補助制度を受ける企業への啓発協力など、ゼロカーボンにむけた環境作り・人作りが進んでいくことを期待する。
- トリジェネバイオガス発電や排熱・排ガスを利用したトマト工場の安定した稼働とともに、メタン発酵消化液の液肥利用が進むことで、半田市バイオマス産業都市構想が進捗することを期待する。また、他市町へ PR とともに、市民に対してもパネル展示等で啓発し、この優れた取組が広く普及することを期待する。
- 公共交通機関の利用については、地域住民や事業者とともに検討しているところであるが、温室効果ガス排出量削減にもつながるため、アイデア募集など利用促進に向けた検討に取り組んでほしい。
- 気候変動対策には、温室効果ガス排出抑制など気候変動を抑制する緩和策とともに、気候変動の影響に対処する適応策が両輪で稼働することが求められる。行政として、クーリングシェルターの指定など、今後、適応策に積極的に取り組むことを期待する。

《評価できない点》

- ゼロカーボンに関して、市職員にも周知不足により、脱炭素に関わる意識が低いと感じることがあり、PR が十分にできていない。
- 暑さ指数（WBGT 値）測定など、緑のカーテンの効果がわかる仕組みが構築されていないため、目的が伝わりにくい点。

《問題と思われる点》

- 市の施策において、家庭や事業所における CO₂ 排出量の削減に直接結びつくことが少なく、民生部門における CO₂ 排出量の削減には、民間が取り組むよう意識啓発や波及効果など間接的な取組しか行政として行えない点
- 公共交通機関の利用促進が進んでおらず、「ごん吉バス」や「ならワゴン」など各地区のコミュニティバスその他地区の住民には十分認知されていない。

柱2 資源循環社会

2-1 3Rを推進する

2-1-1 家庭系ごみの減量化・資源化を促進します

2-1-2 事業系ごみの減量化・資源化を促進します

2-2 廃棄物を適正に処理する

2-2-1 廃棄物を適正に処理します

庁内評価（成果指標達成度数）				庁内評価 対象事業数
 AA	 A	 B	 C	
2	11	0	0	13

半田市環境審議会委員評価				市民評価
 AA	 A	 B	 C	 AA
6	4	0	0	

《評価できる点》

○市民1人当たりのごみ排出量について、ごみ有料化、ごみ分別、資源化などが浸透していることから、順調にごみ排出量が減少しており、計画より進捗が進んでいる点は評価できる。

○目標達成したら市民にゴミ袋を無料配布する還元策は、市民を巻き込みながら、ごみ減量のメリットをわかりやすく伝え、また、減量へのモチベーションを高める良い政策である。さらに、指定ごみ袋をレジ袋として販売、ジモティーやおいぐらの活用、アスパの配布等、ごみそのものを減らすために多角的に取り組んでいることが、一人1日当たりのごみの量の減少につながっている。

《期待したい点》

○市民1人当たりのごみ排出量について、順調にごみ排出量が減少しているが、半田市よりもごみ排出量が少ない自治体もあるため、より高い目標にむけてごみ減量に取り組むことを期待する。

○事業系ごみについても、減量効果・費用削減効果・従業員の意識変化などを含む成功事例紹介など各種の啓発により、家庭系ごみ量の減少と同じように減少していくことを期待する。

○指定ごみ袋をレジ袋の代わりに販売するのはとてもよい取り組みのため、スーパー、コンビニなど協力する店舗が増えるようPRに努めてほしい。

○「もったいない精神」を具現化するため、リサイクルの民間サイト活用に加え、リサイクルセンターを拠点とした取組など、リサイクル事業が発展し、ごみ量削減につながることを期待する。

《評価できない点》

○家庭用ごみの資源化減量化において、自治区における分別回収を行っているが、自治区ごとに回収する資源ごみが異なり、市内で統一することで、より一層の資源化につながる。

○食品ロスの啓発については、市の広報物での啓発にとどまっているため、十分に浸透しておらず、食品ロス削減の取り組みがされていないことや、賞味期限切れの商品の廃棄を減らすなど事業系食品ロスを削減の取組が進められていない。

《問題と思われる点》

○監視カメラや注意喚起看板など対策を試みるものの不法投棄はなくなり、具体的な解決策が見当たらない。

柱3 自然共生社会

- 3-1 身近な自然を保全・創出する
 - 3-1-1 身近に自然と親しめる空間を創ります
 - 3-1-2 自然とふれあえる機会を創ります
- 3-2 生物とその生息環境を守る
 - 3-2-1 在来種の保全と特定外来生物の対策を進めます
 - 3-2-2 生物の生息環境である自然を保全します
 - 3-2-3 農地の多面的機能を維持します

庁内評価（成果指標達成度数）				庁内評価 対象事業数
 A A	 A	 B	 C	
0	16	3	0	19

半田市環境審議会委員評価				市民評価
 A A	 A	 B	 C	
0	10	0	0	A

《評価できる点》

- 公園・緑地面積のマクロな視点とあわせ、南狭間公園整備や童話の森などの個別事業、はんだ水辺マップ&すごろくのソフト事業など総合的に取組が進められている。
- ため池のかいどりについては、水辺の環境保全に加え、外来種駆除にもつながり生態系が維持され、地元主体で、継続的に実施されているため評価できる。
- 自然観察会や水生生物調査で得られた情報を可視化し、「はんだ水辺マップ&すごろく」を作成し、普及啓発に活用している点が評価できる。
- イベントの情報発信に LINE を導入したことは、参加者の世代に即した啓発となり、結果、参加者の増加につなげることができている。

《期待したい点》

- かいどりでやビオトープなど地域の人頑張っていて継続して取り組んでいるが、情報発信を強化することで、関心を持つ市民が増えていくことを期待する。
- ミシシippアカミガメやオオキンケイギクなどの特定外来生物について、減少に向けた対策は難しいですが、外来生物と引き換えにプレゼントを渡すなど、新たな取組が検討されることを期待する。
- 自然共生社会には、自然との触れ合いが一番大切であり、自然観察会や環境学習出前講座等の環境活動は、環境意識の向上に効果的であるため、当日参加時だけでなく、参加後のフォローアップなどつながりを継続することで、環境活

動に関わる市民へと成長することを期待する。

○地産地消・学校給食への取組みは、自然共生社会実現には効果的であるが、一般に広く知られていないため、効果的な PR を期待する。

《評価できない点》

○半田一区から岩滑区を流れる矢勝川は親水性に配慮した整備が行われたが、水質汚濁が著しく親水機能を発揮できてない状況である。

○外来種(アカミミガメ・アメリカザリガニ等)の駆除は、外来種の在来種への脅威を知らせる必要があるため、掲示板の設置や自然観察会などでの周知など、PR 強化が必要である。

《問題と思われる点》

○耕作放棄地の調査でタブレット導入したことは、より正確な調査ができるため評価できるが、調査結果を分析していくためには、一定期間は従来の調査も併用していくことが必要と感じる。

○遊休農地の利用について、場所が点在しており、併せて、トイレや駐車場問題、書類手続きが煩雑など、利用者にとってメリットを感じることができない。

○河川整備における生物の生息環境の確保は、親水性に配慮した整備に限らないため、広い視野を持ち、生物の生育・生息空間の確保につながる取り組みを検討する必要がある。

○自然観察会など実施する市民団体は、ボランティアが主体であり、高齢化が進んでおり、後継者問題が喫緊の課題である。

柱4 安心・快適社会

- 4-1 きれいな水や大気を確保する
 - 4-1-1 事業活動等からの公害防止対策を徹底します
 - 4-1-2 河川・海域・ため池の水質を改善します
- 4-2 農畜産業の環境対策を推進する
 - 4-2-1 畜産施設から発生する臭気・水質汚濁の対策を図ります
 - 4-2-2 環境に配慮した農業を進めます
- 4-3 快適な暮らしを確保する
 - 4-3-1 日常生活に伴う環境問題に適切に対応します
 - 4-3-2 潤いとやすらぎを感じる良好な景観の保全・形成を図ります

庁内評価（成果指標達成度数）				庁内評価 対象事業数
 AA	 A	 B	 C	
0	18	8	0	26

半田市環境審議会委員評価				市民評価
 AA	 A	 B	 C	 A
0	9	1	0	

《評価できる点》

- 市民の日常生活の向上のため、河川、海域、ため池等の定点で水質調査し、きめ細かなモニタリング活動を地道に着実にを行い、環境監視活動が継続できている。
- 下水道整備について、普及啓発活動を行うことで、下水道への認識も向上し、下水道接続率を向上できている。神戸川を始め市内の河川の水質改善にも寄与している。
- 動物福祉と良好な生活環境の確保の両立するため、野良猫問題について、地域猫活動の啓発だけでなく、市独自の補助制度を創立するなど対策している点が評価できる。

《期待したい点》

- 20 年近く開催している「水辺のクリーンアップ大作戦」は、多くの事業所や市民が集まる清掃活動は、今後も継続することを期待する。また、集まる参加者は環境に関心がある方のため、PR する場として活用することも大切である。
- 畜産臭気に関して、解決に向けた取組も大事であるが、現在取り組んでいる臭気の測定結果や畜産農家の対策、半田市バイオマス産業都市構想の取組などを

情報発信し、市民への理解促進を図ることも有効である。

- 空き地の雑草、ペットのフン害、ポイ捨てなど、特定の住民への対策が難しく、罰則や行政処分の運用が難しいため、イエローチョークは住民の心理に着目した対策で、一定の効果が見込まれ、継続して取り組むことを期待する。
- 半田市のシンボルでもある矢勝川の環境改善について、全庁的な取り組みや、阿久比町および河川管理者を含めた総合的な取り組みの一層の強化が必要である。

《評価できない点》

- 脱炭素に関しても事業所の協力が不可欠であり、脱炭素に関わる内容を協定に含むなど、環境保全協定の見直しが進んでおらず、また、新たに協定を締結する事業者がいない点。
- 矢勝川の水質は、自然浄化能力以上の汚れ(有機物等)が流入するので水質改善が進まないため、改善するためには人為的な対策を取らなければ水質の改善は見込めない。

《問題と思われる点》

- 矢勝川の水質改善については、改善しておらず、現時点で有効な改善策が打ち出せてないこと。
- 環境保全協定を締結した事業所への立ち入り検査を実施しておらず、何年かに1回は実施することで、事業所とも情報共有ができ、連携強化につながるため、実施するべきである。
- ペットのフンは犬や猫の問題ではなく、飼い主のマナーの問題である。

柱5 協働

- 5-1 環境を学び、行動する人を増やす
 - 5-1-1 多様な世代の環境意識の向上に取り組みます
 - 5-1-2 学校や事業者との連携で環境学習を進めます
- 5-2 多様な主体の協働で進める
 - 5-2-1 各主体の協働で活動を進めます
 - 5-2-2 環境保全活動を支援し、担い手を育成します
 - 5-2-3 環境情報をわかりやすく体系的に発信していきます
 - 5-2-4 事業者の環境経営を推進します

庁内評価（成果指標達成度数）				庁内評価 対象事業数
 AA	 A	 B	 C	
0	13	8	0	21

半田市環境審議会委員評価				市民評価
 AA	 A	 B	 C	 A
0	10	0	0	

《評価できる点》

- 市民活動や事業所活動において、環境分野における取組が進められており、本市の強みである「協働」が環境分野でも進んでいる。
- 環境への関心や郷土愛を高める「自然観察会」や「はんだの魅力発見ツアー」など、参加して楽しいイベントを通じ、次世代を担う子どもたちに対し、環境に関する意識の醸成を図ることができた。
- ISO14001 認証取得とその維持にはかなりの人的・経済的負担がかかるため、優遇措置など認証取得・維持に対する動機付けとして有効である。

《期待したい点》

- 市内で展開されている協働に基づく様々な環境学習や環境活動の全体像を市民にさらにわかりやすく伝え、市民が自ら選択できる学習・活動のメニュー化を進めてほしい。
- 祭りやイベントでは大量のごみが出るのが前提という見方があるが、ごみ箱を準備しない取り組みにより、ごみを出さないのが当たり前になるような意識改革につながると良い。
- 次の世代を担う子供たちに環境について考えるきっかけとなるためには体験してもらうことが一番のため、農業体験を拡充することを期待する。

《評価できない点》

- いろいろな情報がホームページにあがっているが、日常生活の中で半田市の HP を閲覧する機会がないため、市が主催したイベントを迅速に HP へアップしたり、環境分野で協力する企業や団体などに HP にリンクを張るなどアクセスする工夫により、「ホームページを見る」行動につながる取組が必要である。

《問題と思われる点》

- 環境保全団体の構成メンバーの高齢化と次世代の担い手不足は深刻であり、後継者問題が喫緊の課題である。
- 環境マネジメントシステムの維持には、人的・経済的なコストがかかるため、事業所には負担となる。

令和6年度半田市環境審議会委員名簿

氏 名	所 属 等	区分
ちかみ さとし 千頭 聡	日本福祉大学国際学部 特任教授	1
たけうち かずひろ 竹内 一浩	半田市医師会 顧問	2
はっとり まりこ 服部 万里子	知多薬剤師会 理事	2
さかきばら やすし 榊原 靖	愛知県環境審議会専門員	1
いちの あつお 市野 敦紳	半田商工会議所青年部	2
さかきばら あつし 榊原 厚司	半田市区長連絡協議会 理事	2
やまもと みづほ 山本 美津穂	半田女性活動連絡協議会 副会長	2
あだち のりたか 安達 典孝	愛知県地球温暖化防止活動推進員	2
やまだ かずお 山田 和男	半田こどもエコクラブ 代表	2
たかい けんじ 高井 賢治	愛知県知多県民事務所 環境保全課長	3
おおやま ひとし 大山 仁志	半田市市民経済部長	4
やまもと たかよし 山本 卓美	半田市副市長（※）	4

1. 学識経験を有する者
2. 諸団体及び事業所を代表する者
3. 行政関係機関の職員
4. 市の職員

（※）公害時や計画策定時等は、条例第3条第3項に規定する「特別の事項」と位置づけ、市職員として参加